

[3] 芸術工学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4060992>

出版情報：芸術工学研究. 3, 2001-02-27. 九州芸術工科大学
バージョン：
権利関係：



執筆者紹介

石村真一（工業設計学科）
片野 博（環境設計学科）
佐藤 優（画像設計学科）
森田昌嗣（工業設計学科）
古賀 徹（環境設計学科）
富松 潔（芸術情報設計学科）
山本和彦（保険管理センター）
近藤加代子（環境設計学科）

編集後記

この度は、「芸術工学研究」の第2冊目が上梓できました。芸術工学の本質をどこに求めるかという演繹的な探究方法もありますが、実践学に依拠する斯分野にあつては、むしろ実績・実践を重ねつつ、その中から命題を明らかにする方法も存在するはずで、今回を含めてたった2回の試み（発刊）で何ができるとの反論のあることは重々承知していますが、ローマは一日にしてならずの喩のように地道な活動をとおして実績を重ねることが肝要であつて、牛歩といわれようが休まずに歩き続けること、歌手の水前寺清子ではありませんが、一日一歩を続ければ一年で三百六十五歩になり、振り返ってみれば出版点は遙か彼方、目的地に一層近づいているはずで、何よりも出版の回数を重ねてこの「芸術工学研究」を継続することが第一と考えています。

今回の掲載論文は、年度末に締め切りを設定したため、創刊号に比べると研究の数が少なくなりましたが、質の面では前回と同様に高いレベルにあり、さらに、編集委員会にて学術論文の品位を保つために査読を経たものです。これらの研究成果は芸術工学研究の発展に寄与できるものと確信していますし、ご多忙の中での執筆に対して関係者の方々にお礼を申し上げます。また、読者諸氏におかれては、前回同様忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ編集者として幸甚です。目下の大学改革は、大学のアイデンティティ確立を必須のものとしませんが、この「芸術工学研究」がその一端を担えればまさに本望と言えますし、一大学の枠を離れて社会の中で芸術工学のアイデンティティが確立されるためには関係者間で概念の共有化がなお一層必要といえましょう。



芸術工学研究 Design Issue of KID

No.2, 2000

発行日:2000年6月30日

編集発行:九州芸術工科大学「芸術工学研究」編集委員会©

片野 博(代表)、石村真一、黒澤節男、近藤加代子、佐藤 優、松永 健、米村典子
福岡市南区塩原4-9-1 〒815-8540、tel:092-553-4449 (近藤加代子)

印刷:九州コンピュータ印刷